
多面的機能支払 メールマガジン
「農村ふるさと保全通信」 第10号（2016.12.22）

農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室

=====

「農村ふるさと保全通信」のバックナンバー（既刊号）のページができました！

農水省 HP（<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>）から過去の配信内容がご覧いただけます。

=====

多面的機能支払のメールマガジン第10号をお届けします。

今回の活動組織紹介では、希少生物の保護や獣害対策を行っている組織と、兵庫県のお取組をご紹介します。

事務局からは、11/1（火）開催の事例研究会での発表組織をシリーズで紹介いたします。また、12/1（木）開催の第三者委員会の報告、農村振興局フェイスブックに掲載された組織の紹介をします。

===== 第10号の目次 =====

1. 活動組織の活動紹介

☆大仙市中仙南部広域活動組織（秋田県大仙市）☆

☆杵築市大田地区農地・水・環境保全管理協定運営委員会（大分県杵築市）

☆

2. 第9回ひょうご水土里のふるさとフォーラムの開催報告

3. 事例研究会シリーズ～広域化（滝・金屋農業振興会）～

4. 第6回多面的機能支払交付金第三者委員会の報告

5. 農村振興局フェイスブック掲載記事の紹介～村山の郷・育む会～
（編集後記）

=====

■ 1. 活動組織の活動紹介 ■

☆大仙市中仙（なかせん）南部広域活動組織（秋田県大仙（だいせん）市）☆
本活動組織は、トミヨ属雄物型（通称イバラトミヨ）という体長6cm程の小さな魚の保全・啓発活動に特に力を注いでおります。

イバラトミヨは絶滅危惧種で、きれいな冷水を好み背中には黒いトゲがあり、雄が営巣を行う淡水魚です。本地域には湧泉が分布しており、きれいな水質がイバラトミヨの生息環境を提供しています。

本組織は、ほ場整備に伴い造成されたイバラトミヨの生息域である生態系保全池の維持管理のほか、小学生と保全池の生態系調査を実施しており、子供たちが地域の動植物に触れて学ぶ大切な機会となっております。

また、平成26年度には保全池のイバラトミヨの減少を受け、本組織と市が連携し営巣に必要な水草の移植など再生作業を実施したところ、翌年度には約3.5倍の個体数を確認することができました。

今後もイバラトミヨだけでなく、地元の農村環境の保全に尽力していただくと期待しています。

【秋田県大仙市農林部農林整備課 新田、明平】

☆杵築（きつき）市大田地区農地・水・環境保全管理運営委員会（大分県杵築市）☆

大分県杵築市にある大田地区は、世界農業遺産に認定された国東（くにさき）半島の中心に位置しています。協定区域内には14の集落が散在している広域活動組織であり、稲作が盛んに行われていますが、毎年イノシシ・シカによる多くの獣害被害に悩まされている地域でもありました。

そこで、多面的機能支払交付金で獣害防止柵の材料や補修の資材を購入し集落の共同活動で設置している他、柵周辺の草刈りやつるの除去なども行い保全管理に努めています。

このように、農地の保全として獣害防止柵も維持されることから多面的機能支払交付金は重宝され、無くてはならないものとなっています。

【杵築市大田地区農地・水・環境保全管理協定運営委員会 会長 中山田秀俊】

■ 2. 第9回ひょうご水土里のふるさとフォーラムの開催報告 ■

12月10日（土）、兵庫県公館（神戸市）において「第9回ひょうご水土里のふるさとフォーラム」を開催しました。

このフォーラムは、本交付金の取組をさらに拡大・発展させるため、活動組織の取組意欲の一層の向上等につなげることを目的としており、当日は県内外から約500名の参加がありました。

多面的機能支払交付金を活用して特に優れた取組を行った活動組織に対し、「みどり豊かなふるさと大賞」の知事賞（1地区）と委員長賞（4地区）が授与されました。続いて、知事賞を受賞した養父（やぶ）市の能座地区地域資源

保全隊 高階博代表による事例発表や、本年度は「女性が活躍する魅力ある農村」をテーマに静岡大学人文社会科学部教授 日詰一幸氏による基調講演や活動組織で活躍されている女性を交えたトークショーを行いました。

「女性が活躍する魅力ある農村」の実現に向け、参加者の意識醸成につながる大変意義深いフォーラムとなりました。兵庫県では、今後も引き続き本フォーラムの開催等により本交付金の取組をさらに推進します。

【兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課】

■ 3. 事例研究会シリーズ～広域化（滝・金屋（かなや）農業振興会）～ ■

11月に開催した事例研究会の発表の中から、組織の広域化に取り組んだ京都府与謝野町の滝・金屋農業振興会を紹介いたします。

本組織は、もともとは、農地・水等の交付金を活用しながら、2集落が別々に水路等の施設管理を行っていました。しかし、高齢化による離農が進み、滝集落から金屋集落への担い手の入り作が増え、施設の管理について集落間の連携が必要となってきたことから、京都府の支援のもと、平成24年度に組織を合併し、広域活動組織となりました。

現在では、チーム編成による組織の運営体制の強化や女性役員の登用等を行い、事務の効率化や地域の情報発信等を積極的に行うことにより、地域の活性化に繋がる、子供キャンプ受入やひまわり栽培、イベント開催などの様々な活動にも取り組んでいます。

詳しくは、HPに掲載した京都府の発表資料をご覧ください。

発表資料はこちらから（農水省HP）

→ http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/jirei_kenkyu_kai/H28.html

【農村振興局農地資源課】

■ 4. 第6回多面的機能支払交付金第三者委員会の報告 ■

農林水産省は12月1日（木）、「第6回多面的機能支払交付金第三者委員会」（座長：中嶋康博 東京大学大学院教授）を開催しました。

委員会は、本交付金が計画的かつ効果的に取り組まれるよう、これまでの活動の点検及び効果の評価を行い、その結果を施策に反映させることを目的としています。

本年度は、平成26年度の制度改正から3年目を迎え、評価結果を基に中間評価の骨子を取りまとめることとしており、今回は、平成27年度の実施状況や地方公共団体等の取組状況、活動組織による自己評価・市町村評価結果等について、ご意見をうかがいました。

委員からは、「制度が着実に地域に浸透していることがデータにあらわれている」、「波及効果として地域での話し合いが活発になった活動組織が多いことは良い方向である」といったご意見がありました。

今後も第三者委員会でのご意見などを踏まえ、来年度の中間評価の公表に向けて本交付金の効果に関する分析を深めてまいります。

第三者委員会資料はこちらから（農水省 HP）

→ http://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/n_sansya/index.html

【農林水産省農地資源課】

■ 5. 農村振興局 Facebook（フェイスブック）掲載記事の紹介～村山の郷・育む会～ ■

農林水産省農村振興局公式 Facebookにおいて、多面的機能支払交付金の活動組織が紹介されましたので、お知らせいたします。

記事は、先月、世界かんがい施設遺産に登録された山梨県北杜（ほくと）市の「村山六ヶ村堰疏水（むらやまろっかむらせきそすい）」で活動する「村山の郷・育む会」の活動についてです。

活動の様子が分かる写真や世界かんがい施設遺産に関する情報も掲載しておりますので、是非ご覧ください。

農村振興局 Facebookはこちらから

→ <https://www.facebook.com/nouson.maff/posts/1756288551290235>

【農林水産省農地資源課】

■ 編集後記 ■

兵庫県からの投稿「水土里のふるさとフォーラム」に参加させていただきました。兵庫県では「ため池マン」というキャラクターが県下の学校を周り、子供たちにため池の大切さを学習する機会を作っています。本フォーラムでも「ため池マン」による劇が行われ、取組の一端を見ることができました。

本年度から始まった、「農村ふるさと保全通信」も第10回を迎え、配信当初は約2,600だった登録者数は、現在3,000を超えました。ご愛読いただいている皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

さて、今回が年内最後の配信です。それでは、良いお年をお過ごしください。

◇メールマガジンの新規登録は次のサイトからお願いします◇

メールマガジンの新規登録・配信変更等はこちらから

→ <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

既に本省及び農政局等で発行しているメールマガジンにご登録されている方は、パスワードが必要です。パスワードの発行はこちらから

→ <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

メールマガジンに関するご意見・ご感想はこちらから

ご自身の所属する活動組織の紹介文（300字程度）を掲載したい方や、取り上げて欲しいテーマがある方のメールもお待ちしております。

→ tamen_ml@maff.go.jp

【発行】

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：秋山）

TEL：03-3502-8111（内線5493）
